

足し算で、異なる符号の数は、絶対値を較べる。

符号は、絶対値の大きな数の、符号になる。

絶対値は、2つの絶対値の差になる。

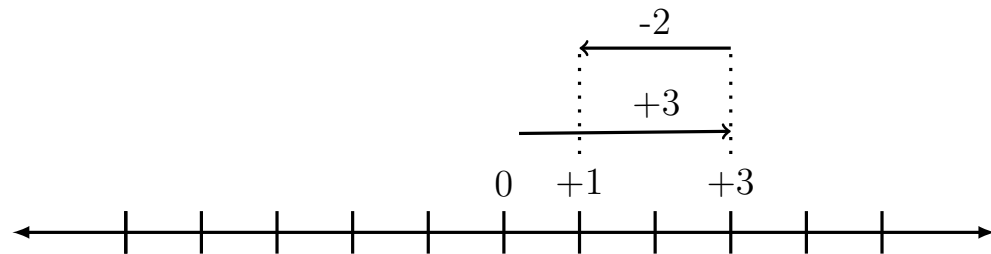
例えば、 $(+3) + (-2)$ は、

$(+3)$ と (-2) の絶対値を較べる。

_____の方が絶対値が大きいので、符号は_____になる。

絶対値は、_____なので_____になる。

$$(+3) + (-2) =$$



例題 2 以下の数を、計算しなさい。

$$(1) (+3) + (-5) =$$

$$(2) (-3) + (+5) =$$

$$(3) (+6) + (-7) =$$

$$(4) (-6) + (+7) =$$

$$(5) (+11) + (-2) =$$

$$(6) (-11) + (+2) =$$

$$(7) (+3) + (-3) =$$